

令和6年度第3回滝沢市上下水道事業経営審議会議事録

I 日 時 令和6年10月22日(火) 13時30分～15時10分

II 場 所 滝沢市役所分庁舎 第6会議室

III 出席者 上下水道経営審議会委員 出席9名

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員】

山田一裕委員、山口孝委員、荒屋貢委員、齋藤誠司委員、田村武委員、
佐々木里美委員、菱田廣士委員、小池倫子委員、八重樫節夫委員

【滝沢市】

上下水道部長 及川竜悦

施設課 課長 長谷川唯倫、総括主査 林野和恵、副主幹 高橋利昌

経営課 総括主査 高橋竜也、主任主査 田村幸子、主査 佐藤克也

IV 次 第

1 開会

2 挨拶

部長挨拶

3 議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に荒屋貢委員及び菱田廣士委員を指名した。

4 報告事項

- (1) 令和5年度滝沢市水道事業会計決算について、資料「水道資料1 令和5年度水道事業会計【決算概要】」、「水道資料2 令和5年度滝沢市水道事業会計決算書」及び「水道資料3 令和5年度滝沢市水道事業会計決算審査意見書」に基づき説明し、これに対し質疑応答があった。

【齋藤委員】水道資料3の4ページ業務の概要について、年間総配水量が少なくなっている反面、給水人口が増えている状況について、原因はお分かりか。

全般の経営状況について、監査委員からの意見としてはこのとおりかと思うが、上下水道部としては水道の経営についてどのように判断されているのか。

【高橋総括主査】年間総配水量は減っており、給水人口も減っている。最近の傾向としては、給水人口は減っており給水普及率は増えている。これは、水道メーターが付いているところは増えており、給水人口としては減っているというのがある。

【齋藤委員】人口減少だけと考えるとよろしいか、大規模改修でお金がかかるということか。

【山田会長】ちなみにこの給水人口の減少は、自然減か滝沢市は出入りが多いと思うが転出減が影響かどのように捉えているか。

【高橋総括主査】どちらもではあるが、出生数も減っており、転入転出に関しては、前までは3月に出ていく人が多く4月以降に入ってきている人が多かったが、ここ2年くらいだと、3月は転出した人が多く4月以降に転入があまり見られない。

【山田会長】もう一つのご意見である、審査意見は審査意見として上下水道部としては水道の経営についてどのようにお考えか。

【高橋総括主査】昨年度の比較ではあるが、水道に関してはおおむね安定した経営かなと思う。急激に水量が減るとか、今後の交付金との兼ね合いではあるが、令和4・5年度の数字だけをみると、安定した経営かなと思う。

【齋藤委員】今の時点で考えられることは人口減少だけと考えるとよろしいか。今年、来年の大規模改修でお金がかかるというのではなく、自然に人が減っていくなかで収入が減っていくという考え方でよろしいか。

【高橋総括主査】人口の減少もあるが、今年度から水道施設の更新計画を策定し始めて、今後どのくらいの工事の需要が発生してそれをあまりかからないようにしていくか検討しているところである。

【及川部長】経営状況について補足で、指標について説明したが、これからかかってくる経費ということで、更新計画を今年度、来年度計画していく中で、かかる経費は計算の中でできるものと考えているが、もう一つが大規模な災害の際、単年度予定していた収入が見込めないということも十分考えられる。一つの指標としては内部留保資金、現金預金で単年度の給水収益を賄えるぐらいは蓄えておくということで、不慮の災害の際に対応できるものと、経営状況の判定ということで考えている。

その部分では現在、水道資料1の1ページ2決算の概要の表、給水収益が収入の82.9%を占めており、この部分をいざというときに最低限賄える部分は、内部留保あるいは現金預金として確保したいということで、9億円から10億円程度、最低限必要と考えている。現在、水道資料2の10ページ、流動資産の合計が15億749万円とあるが、この金額は目安としている単年度の料金収入を賄えるという部分で上下水道部としては、経営状況としては安定しているとひとつの考え方としている。

【山田会長】水道資料3の7ページ、水道施設耐震化等推進事業費補助金とあるが、国から継続して得られる補助金なのか。

【長谷川課長】国に毎年度、事業内容を申請しているもので、令和5年度から国庫補助を受けているものであり、令和6年度についても交付の決定を受けている状況である。

【山田会長】耐震化を予定している計画であれば、規模に関わらず申請できるのか、どういう内容か。

【長谷川課長】規模と事業費というところで、規模の要件と経過年数40年経過しているもので、主要な幹線であるというところで申請している。

【山田会長】先ほど安定的な経営が見込まれるとあったが、内部留保もあれば、設備投資である耐震化を図っていかなければならない中で、もう少し積極的に投資をしていってもよいのかなと思うが、そういう経営観点からはどうお考えか。

【及川部長】内部留保が多ければ多いほどいいのかということ余計に経費をかけているのではないということにもなるので、将来かかる更新費用を一時的に負担とならないように平準化して考えなければならない。更新計画が令和7年度に整った時点で適正な内部留保と投資を計画していきたい。

【山田会長】再来月また、審議会において令和7年度の計画を審議する予定としているので、抱えている資産をどのように配分していくか、審議会の皆様に意見をいただきたいと思う。

(2) 令和5年度滝沢市下水道事業会計決算について、資料「下水道資料1 令和5年度下水道事業会計【決算概要】」、「下水道資料2 令和5年度滝沢市下水道事業会計決算書」及び「下水道資料3 令和5年度滝沢市下水道事業会計決算審査意見書」に基づき説明し、これに対し質疑応答があった。

【齋藤委員】水道事業と同じように下水道事業について、どのような経営判断をされているのか。

また、経費回収率100%を超えていないことに関し、毎年のように監査委員からも審査意見がある中で、資料1の5ページ経費回収率の計算式があるが汚水処理費に対する使用料収入が低いことであれば、意識的に改革がすることが可能なのではないかと思うがいかがか。

【高橋総括主査】水道事業会計に比べ全国的にもそうだが、経営は少し厳しいかなと思う。内部留保資金の話もあったが、年間下水道使用料を賄えるほどの内部留保資金があるわけではない状況である。

【齋藤委員】経営指標で全国平均は上回っているのに、不安定ながらも軌道に乗って順調に進んでいるのかと捉えているがよろしいか。

経費回収率については、ちょっとした改善で経費回収率100パーセントを超えるのであれば何か取り組めるもの、経費の削減で取り組めるものはないのかお聞きしたい。

【及川部長】経営状況について、想定では令和5年度決算で内部留保5億円を超える予想をしていたが、維持管理費にかかる費用が多く、積み増しが少なかったということもある。ここ数年は厳しい状況ではあるが、経営状況は安定しているというところで、委員の皆様にご理解いただければと思う。

経費回収率に係る汚水処理費について、人件費等あるが、削減の可能性が一番あるのは、流域下水道に支払っている負担金かと思う。市から流れていく汚水の量に応じて負担金が決まるが、そのうち20数%はおそらく雨水で、長いスパン

ンでの計画になるが削減していくことが一番の近道ではないかと思う。今年度も当初の計画では、不明水対策として具体的に想定していたが、国からの交付金の額が想定よりも若干少なく不明水対策として予定していた工事についても、汚水管の改築の工事費に充てざるを得なく、今年度は不明水対策としては実施してはいたところ。これも計画を策定しつつ、補助金をできるだけ有効に活用して、有収率を上げることで経費回収率が100に近づくと考えており、令和7年度以降で計画していきたい。

【齋藤委員】人口が減り有収水量が減っても、多分雨水は増えていくかと思うので、できるところからやっていくという計画を是非立てて欲しいと思う。

【八重樫委員】資料3表4の資本的収入の国庫補助金が対前年度比で半分以下になっているが、国庫補助金が少ないから建設改良費が少ないのか、建設改良費が少ないから国庫補助金が少ないのか、どちらか。

【長谷川課長】令和4年度に大きい事業を実施しており、そのときに国庫補助金が大きく、令和5年度はその分減った。足りなくてできなかったというわけではなく、内容見合で減ったということ。

【山田会長】先ほど齋藤委員からもあったが、不明水対策について、不明水量が総処理水量に占める割合を考えても102万8,288m³と結構な量を占めており、1割削減できれば十分、経費回収率は上がってくる。時間をかけても、結果、無駄な経費を削減することで健全化につながるので、是非効果的な対策、計画を立てて情報提供をお願いしたい。

(3) 滝沢市水道料金算定要領について、資料「滝沢市水道料金算定要領について」及び「滝沢市水道料金算定要領について【関連資料】」に基づき説明し、これに対し質疑応答があった。

【菱田委員】資料14ページの下部の米印「基本料金収入の比率を高めることは、」とあり「利用者の影響の小さい範囲で徐々に基本料金で費用を回収するような体系に変更していくことが重要」とあるが、将来的に基本料金を上げざるを得ないという解釈でよろしいか。

【高橋総括】基本料金でみるか、従量料金でみるかということで、使っていく水量が少なくなっていくというのであれば、今後の経営の計画と合わせながら、バランスを見定めながらやっていきたい。

【菱田委員】水道料金については、従量料金と基本料金とセットの考えで、従量料金については使った分だけということで市民の方に分かりやすいのだが、基本料金については維持管理費、減価償却費などあるが、いずれどちらにせよ水道料金を上げていかないと経営基盤は成り立たないという解釈でよろしいか。

【及川部長】補足で、関連資料の後ろから2ページ「4適正な水道料金のあり方について」とあり、平成30年度の経営審議会でも答申いただいた意見の中で「料金体系見直しについて①～④」まで意見をいただいた。①については基本料金の割合

を高めるべきとあり、②については基本水量制の廃止について暫定期間が過ぎたので廃止すべきというもの、④については料金改定に当たっては基本料金がなぜ必要なのか、基本料金の割合を増やさなければならない背景などを情報として出していく必要があると御意見をいただいているもの。この答申を受けて、今回の算定要領について皆さんに説明させていただいて中身をご理解いただくという意味合いであったもので、前段答申を説明したうえで料金算定要領について説明した方が分かりやすかったと思う。

先ほど質問があった基本料金の変更については、市でそのように進めたいというよりも、答申を受けてそのような考え方を算定要領に取り入れていくというものである。説明の順番が逆だったが、こういった答申書があり料金算定の要領に基づくものであるという説明が趣旨である。

【山田会長】審議会において、次の料金改定について議論を始める状況にはまだないということと、料金改定するかどうかに限らず見直しについて議論をするというのが4年に1度求められているので、見直しの時期にもうそろそろなるということで、そのとき料金改定が必要なかどうかはこの審議会で議論すべきことである。

その場合に基本料金を改定するかどうかはそのときの会計報告の状況にもよるので、現時点で基本料金をどうしていくか具体的には決まっていない。その前提として滝沢市における水道料金の改定というのはどういった仕組みで成り立っているのかご理解いただくという資料説明だったのかなと思う。

これを踏まえて議論すべきものであり、平成22年度から水道料金改定についていろいろ議論させていただき中で、平成30年度に答申させていただいているところだが、やはり基本料金設定というのは、水道水をあまり使わない世帯というのは、結構負担が大きな改定だったが、これを乗り越えないと今後人口が減少していくなかで安定した収入が得られるのかという自然の流れであって、どのようにバランスをとっていくかが今後必要になってくる。改めてまた水道料金の見直しについては議論あると思うので、是非今回の資料をもとにまた審議いただくと思うのでご理解が十分でないようであれば、今後ともご意見をいただけたらと思う。

5 その他 要望や意見について委員から発言があった。

【齋藤委員】先ほどから料金改定の話があるが、改めて、ここは議論する場であって、是非を決める場ではないので、是非みなさん自由に意見していただきたい。

審議会から市長の方に過去数回、料金改定に関して答申しており、3年～4年の間隔で料金の見直し事務をしてくださいという答申をしているのだが、多分今まで見直しに関する諮問というものが出たことがないと思われる。職務に携わったことがあるので分かるが、見直しのやり方が分からないというのが正直なところではないのかなと考えている。現実的には予算が不足しないと料金改定に繋が

らないというような現実があるので、審議会としては出来ればそういう事態に陥らないようにしたく、3年～4年で見直しをするというもののほかに、出来れば、今年度の経営状況の分析というものを出していただきたいと考えている。今年でいえば令和5年度の決算書、そして次に出てくるのは令和7年度の予算書が出てくる。肝心の令和6年度の分が抜けているので今の経営状況が分からない。今の経営状況が分からないというのは、例えば、料金改定するとすれば、1年程度の経営状況の分析を飛ばしてしまう事態になるのではないのかなと思っているので、出来ればこれから事務局と話しをさせていただき、当該年度の経営状況ほかで言うところの中間決算をどうにかして出せないのかなというのが1つ希望である。

今年度の経営状況が分かれば、来年度にどのような政策をもっていくかというのが分かる。今の時点で令和6年度の経営状況が分からないので令和7年度の予算書をいただいても審議会としてはなかなか審議することが難しいというのが見込まれるので、出来れば、今どういう状況なのかというのを出していただきというのが1つある。

今回の経営審議会が12月に予定されているので事務局と相談して可能であればどうかというのをまず協議させていただいて、もし可能であれば、審議会の方からの付帯意見として、こういった資料を出していただくと、そして次に対応していきたいと考えているが、委員の皆様がよければ、そういうかたちで出したいと思っているが、皆様いかがか。

【山田会長】ただ今の意見について、前々からこの点については意見が出ており、実際見直し作業をしたくても、当該年度の報告が無い状況で、改めて計画を立てる上で情報不足を否めないというところの懸念事項としてあった状態である。改めて今年度こういった意見を踏まえて、新たな負担になるかと思うが、審議会の意見としてこの場でそのような意見を盛り込んだかたちで進めてよろしいかということをお諮りしたい。決議事項でないが、委員の皆様からの総意であれば事務局に伝えてもらうという流れになるかと思うが、委員の皆様から忌憚なく意見をいただきたいと思うが、いかがか。

【八重樫委員】タイムラグがないほうがいいが、事務局は大丈夫か。

【山田会長】例えば半年を区切るなり、何か工夫はできないかというのが齋藤委員のご意見。見直し上、料金を変えるべきかどうかの判断の材料が1年空いてしまっている、情報がない状態なので、果たしてこれが的確なのかどうなのかということの心配はあり、以前からこういう意見があった。

ほかの委員の皆様からはいかがか。ご異論がなければ、審議会からの総意として情報の提供として、可能であれば当該年度の中間報告をしていただくということで意見をまとめさせていただく。齋藤委員よろしいか。

【齋藤委員】協議を進めていきたいと思う。

【山田会長】どういう内容が必要なのかというのは、そのすべての情報が必要だとは理解していない。要するに必要最小限の情報で中間報告ができるのであれば、事

務負担も少なくなると思う。齋藤委員と協議を進めていただいて、整理していただければと思う。

6 閉会

この議事録は書記の記載したものであるがその内容が正確であることを証するためにここに署名する。

令和 6 年 12 月 25 日

滝沢市上下水道事業経営審議会

会 長

山 田 一 裕 

署名委員

荒 屋 貞 

署名委員

菱 田 廣 士 